2026年11月12日

各　　位

会　社　名　株　式　会　社　ひ　ら　ま　つ
代 表 者 名　代　表　取　締　役　社　長　三 須 和 泰
（コード番号　2764　　東証スタンダード）
問 合 せ 先　　執行役員経営管理本部長　　服 部 亮 人
（ＴＥＬ：　０３　－　５７９３　－　８８１８）

業績予想と実績の差異に関するお知らせ

2026年５月14日に公表いたしました2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想と本日公表の実績に差異が生じましたので、お知らせいたします。

記

１．2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想と実績の差異（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 4,804	百万円 △114	百万円 △121	百万円 △138	円　銭 △1.96
実績値（B）	4,876	△48	△38	△64	△0.91
増減額（B-A）	72	65	83	74	―
増減率（％）	1.5	―	―	―	―
（ご参考）前期実績 （2026年３月期中間期）	4,466	△66	△67	△28	△0.40

（２）個別

	売上高	経常利益	中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 4,732	百万円 △121	百万円 △138	円　銭 △1.96
実績値（B）	4,788	13	△14	△0.21
増減額（B-A）	55	135	123	―
増減率（％）	1.2	―	―	―
（ご参考）前期実績 （2026年３月期中間期）	4,459	△75	△37	△0.53

２．差異の理由

本日公表の「2027 年３月期第２四半期（中間期）決算短信」に記載のとおり、レストラン事業における既存店売上の増加、ブライダル事業における組単価の上昇、ホテル事業におけるホテル総売上及び運営受託報酬の増加など、各事業が概ね好調に推移したことから、売上高が 2026 年５月 14 日に公表した予想値を上回りました。利益面においては、増収効果に加え、人件費が計画を下回って推移したこともあり、営業損益及び経常損益が予想値を上回りました。親会社株主に帰属する中間純損失は 64 百万円となり、予想値（中間純損失 138 百万円）は上回ったものの、前年同期（中間純損失 28 百万円）からは損失が拡大しました。これは、前年同期には繰延税金資産の計上により法人税等調整額△54 百万円（利益）を計上していたのに対し、当中間期は法人税、住民税及び事業税 15 百万円に加え、繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額 10 百万円を計上したことによるものであり、税金費用の影響を除いた損益は前年同期から改善しております。

なお、2027 年３月期の連結業績予想につきましては、上期の業績が計画を上回って推移したことから前年を上回る見込みであり、当初予想を上回る可能性もありますが、当社グループは第３四半期に利益が集中する傾向にあることに加え、新規出店店舗の開業後の業績動向など不確実な要素もあることから、繁忙期である第３四半期の実績をもって精査し、修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

以上